

ADDICTION NEWS

30

ニュースレター
2018年11月30日発行
日本アディクション看護学会事務局

A 日本アディクション看護学会
Japanese Society for Study in Addiction Nursing

Topic

第17回日本アディクション看護学会学術集会報告
第18回日本アディクション看護学会学術集会ご案内
第7期理事長挨拶
アディクション看護学会投稿規定について
2018年度研修会
事務局紹介

第17回日本アディクション看護学会学術集会を終えて

学術集会大会長 河口 朝子 (長崎県立大学)

「生きづらさの語りと共存

ーアディクションを視野に入れてー

平成30年9月1日、2日、長崎県立大学シーボルト校にて、第17回日本アディクション看護学会学術集会を開催いたしました。九州での初めての開催でしたが、皆様方のご協力のもと、北は北海道から南は沖縄の全国から428名の参加をいただき、心より厚く御礼申し上げます。台風と予算確保の見えないものとに随分格闘しました。どのようにして予算確保するのか、協賛金や寄付金の確保の方法を病院の事務部長より教授いただき、挙句の果てには「私はしーきらん」（このレクチャーの時間は何だったのかときっと思われただろう）と頭を抱えながらも、「直接行ってお願いすること、社会のためになるのだと、アディクシ



ン問題への取り組みを語ればよい」そうは言われても。直接伺う。これだけは、言いつけを守り、

アディクションの言葉を知らない医療・福祉関連の施設や企業にお願いに伺いました。

また、参加者の呼びかけに後援をお願いしました。長崎県、地元の長与町、所属先の長崎県立大学、長崎県看護協会、日本精神科看護協会長崎県支部、長崎新聞など20ヶ所から後援をいただきました。

協賛企業10ヶ所、広告掲載協力15ヶ所、学術集会のHPを日本アディクション看護学会、長崎県立大学、長崎県理学療法士協会のHPにリンクしていただきました。当学術集会を盛会に終わることができましたのも、後援・協賛いただきました皆様・企画委員・実行委員・森千鶴日本アディクション看護学会理事長（30年9月現在）はじめ学会関係者・長崎県立大学職員・学生・卒業生の皆様、私の前所属関係機関であります国立病院機構肥前精神医療センター・下総精神医療センターの職員の皆様のご尽力の賜物です。

そして、快く講演をお引き受け頂きました水谷修先生はじめ諸先生方のお力添いに心より感謝申し上げます。

本学術集会では、当事者の語りを元に生きづらさを抱えながら生活される状況を医療関係者だけでなく、当事者、文化人類学、教育学の視点と他の学問領域の考えも視野に入れ、また、今回、予防の観点にも力をいれて企画しました。そこで、基調講演では、子どもたちの非行防止や薬物汚染の拡大防止のために日夜全国を駆け回っていらっしゃる水谷修先生に「あした、笑顔になあれ---夜回り先生、いのちの授業」をテーマにご講演いただきました。水谷先生のカリスマ性と鳴りやまない拍手が今も耳に残っています。ランチョンセミナーでは、覚せい剤・大麻研究の薬理学の第一人者の山本経之先生に「大麻のどこが危険なの？---有害性と医薬品への可能性---」、特別講演Ⅰでは、磯野真穂先生に「もし依存症が病気でなかったら文化人類学からとらえる『摂食障害』」、特別講演Ⅱでは、杠岳文先生に「依存症予防と生活習慣の行動変容」。実践家（医師）であり学者である杠先生の講演は豊富なデータに裏付けされたもので、こうやって動機づけするんだと思いました。教育講演Ⅰでは、松下年子先生に「高齢者虐待と

共依存」、教育講演Ⅱでは、白石裕子先生に「認知行動療法を活かすアディクション看護」についてご講演いただきました。先生方のご講演内容は学会誌にて紹介されるかと思います。依存症者の回復支援でご活躍の菅公臣先生に「ダルクで回復することとは一なぜ仲間が必要なのか---」、また、シンポジウムでは、パネリストから「アディクションと語りの意味」について、多職種の発言をいただきました。



今回、はじめて教育研修として、困難事例を提供していただき、アディクション看護の専門家と共に検討しました。指定交流集会2つと交流集会2つ、口演・示説を開催しました。アトラクションでは、当大学の学生サークル「虹太鼓」演奏を楽しんでいただきました。

大雨の中、長崎に足を運んでくださりまして誠にありがとうございました。生きづらさを抱えながら日々生き抜いているアディクション関連問題を抱える当事者への理解が深まりますことを期待し、微力ながら学会に貢献したいと思います。

看護学会長崎大会に参加して

本大会では、特別企画の事例提供や演題発表をさせていただきました。事例提供では高齢者のアルコール問題について会場の皆様からご指導をいただきました。臨床で多くの疑問を抱えていた事例でしたので、知見が広がるとともに、自分たちの実践してきた看護を振り返る機会となりました。教育学分野を専門とされる方からもご意見をいただき、提供させていただいた事例の関心の高さに驚きました。

1日目夜の親睦会では、名物の角煮まん、皿うどんなどに舌鼓を打ちつつ、普段はなかなかお目にかかれない先生方とお話し出来る機会をいただ

アルコール健康対策基本法が制定され、同法に基づいて各都道府県においても中長期的な推進計画が打ち出されている。患者支援を考えたとき、当院において集団力動も加味した ARP の提供のみならず個別介入の徹底など入院期間中の支援が中心であり退院後の患者サポートの希薄さを痛感していた。「回復支援における看護の役割」を考え「アドイクション専門看護相談外来」を開設。内容・経緯、今後の課題も含め交流集会の場で発表した。

- ・過去に取り組もうと思っはいたが診療報酬が取れないことで頓挫した
- ・外来との連携で実施している
- ・「やれない」と「やらない」ことは違うと思った
- ・やはりアドイクションアプローチにおいて「熱意」が大事だと改めて思った
- ・看護でも力を発揮できる場を見出しながらも実践していくことの大切さを感じた
- ・個人病院だからできることでしょう
- ・他職種の協力、支援がうらやましい… 等

発表後の質疑、終了後においても様々な反響があ

朝日大学保健医療学部看護学科 桐山啓一郎

きました。長崎市役所二胡愛好会の皆様による二胡の演奏も素晴らしかったです。

大会の参加者は九州にとどまらず、日本全国から来られていました。また、後援や協賛はこれまでの学術集会よりも多いように感じました。アドイクション看護への注目の高まりを感じ、本学会の意義も向上していると実感しました。

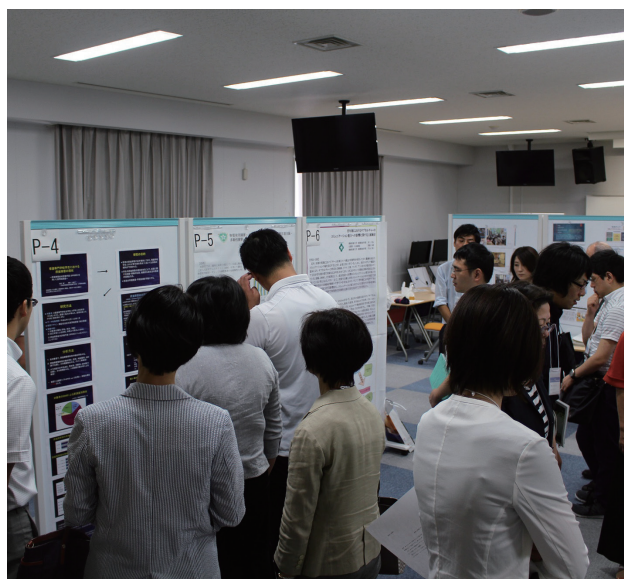
最後になりましたが、大会長の河口先生はじめ、企画委員、実行委員、ボランティアの皆様のご配慮により、有意義な2日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

医療法人誠心会 神奈川病院 長島 努

り関心の高さを感じた。

リタイヤした患者へのサポート体制、対応スタッフ教育など課題は山積みではあるが、看護を含め医療チームとしてサポートをすることの重要性を再確認するとともに「自分たち看護師」にとって何が出来るかを探求していきたい。

今回、学術集会において発表の機会をいただき感謝いたします。



長崎県で行われた、第17回日本アディクション看護学会に参加し、磯野真穂先生の特別講演「もし依存症が病気でなかったら—文化人類学からとらえる『摂食障害』」、水谷修先生の基調講演「あした、笑顔になあれ—夜回り先生、いのちの授業」に大変感銘を受けた。

磯野先生の講演では、当たり前になっていること、当たり前に行っていることを疑うことの重要性と、自分自身の当たり前に気づくことの難しさについて考え、日常的に抱えている自分自身の考え方について立ち止まって振り返る良い機会となった。

水谷先生の講演では、数多くの印象的なエピソードを聴かせていただいた。その中でも、高校2年生の女子との出会いから死別までの関わりが、大変印象に残っている。自分が同じような環境に

至った場合、水谷先生のように関わることができるだろうか、自分は何のような関わりを行うか考えることができた。

16年の看護師経験の中でアディクションの方との出会いは少なく、知識としてもまだまだ足りないが、アディクションの知識はあらゆる精神科看護に通じると再確認することができた。



第18回日本アディクション看護学会学術集会のご案内

大会長：吉岡幸子（帝京科学大学医療科学部看護学科教授）

期日：2019年6月29日（土）・30日（日）

場所：帝京科学大学7号館

（東京都足立区千住桜木1-11-1）

募集：【一般演題】2019年1月1日～4月10日

【交流集会】2019年1月1日～3月15日

参加費：（事前登録）

会員：7000円、非会員：8000円、学生：2000円

大会長講演：吉岡幸子先生（帝京科学大学）

基調講演：徳永雅子先生（徳永家族問題相談室室長）

特別講演Ⅰ：樋口進先生（久里浜医療センター院長）

特別講演Ⅱ：斎藤環先生

（筑波大学医学医療系社会精神保健学教授）

教育講演Ⅰ：吉岡隆先生

（こころの相談室リカバリー代表）

教育講演Ⅱ：成瀬暢也先生

（埼玉県立精神医療センター副病院長）

教育講演Ⅲ：森田展彰先生

（筑波大学医学医療系社会精神保健学准教授）

ワークショップ：瀬在泉先生（防衛医科大学校准教授）

シンポジウム1：山谷の今、看護の役割

シンポジウム2：子ども虐待とアディクション

シンポジウム3：当事者の語りから何を学ぶか

シンポジウム4：

一般病院における依存症支援を考える

シンポジウム5：

依存症専門病院の新たな看護の取り組み

「絵本朗読」：NPO法人ふるすあるは

ランチオンセミナー：「ギャンブル依存の最新情報」

「アディクションと栄養」（予定）

一般演題・交流集会

*現在、事前登録の締め切り日、大会プログラムの詳細は、大会HPでご確認ください。

*事務局：第18回日本アディクション看護学会学術集会事務局 e-mail：jaddict18@ntu.ac.jp

第7期理事長挨拶

日下修一 (聖徳大学)

アディクションはコントロール障害を特徴とする「病気」であり、アルコール依存症、薬物依存症、タバコ依存、買い物依存、恋愛依存、性依存、ギャンブル依存、ネット依存、ゲーム依存、共依存など様々な依存症があり、さらには摂食障害、DV、児童虐待、暴力など直接は依存症ではないと考えられているものも含まれる幅広い概念です。日本アディクション看護学会はこうしたアディクションに関する看護を探求し、研究を行い、情報を交換し、様々な医療現場、地域社会に存在するアディクションを抱える人々に適切なケアを提供できるよう看護職に普及啓発する学会です。精神看護学の分野のみならず、救急医療、消化器などの一般科の看護、母子保健、助産、地域医療など幅広い看護・保健の分野にアディクションは存在しています。

日本アディクション看護学会は2002年4月1日付で発足し、2018年に16年目になりました。発足当初の目的の一つは臨床現場と研究者が共同して学会活動を推進していく形を求めていました。また、アディクション看護の総論形成や、アディクション看護の探求を求めていました。一定の成果はありましたが、昨今の本学会は会員比率も研究者に傾く傾向が強く、当初の本学会設立の目的が弱まっていると感じている方々もいらっしゃるかと考えております。そこで、第7期は研修会の充実などを進める中で、臨床の現場の皆様との交流の場、研修の場を提供する機会を増やし、現場の皆様の会員数の増加を図り、アディクション看護としての研究の活性

化、アディクション分野の認定看護師養成、アディクション看護の普及などに力点を置き、会員の定着をはかることを目標とします。

私が4代目理事長として、選任されましたのは、様々な理由があるとは思いますが、設立当初から活動してきた理事の一人として理事長となりましたので、過去と未来を結び、今後の本学会の発展を図れるよう、体制を一新し、研究者はもちろん、現場の方々にも親しみやすい学会を目指して邁進する所存です。本会の発展のため、会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

日本アディクション看護学会 第7期役員

理事長	日下 修一	理事
事務局長	丸山 昭子	理事
理事	松下 年子	吉岡 幸子
	日下 修一	米山奈奈子
	五十嵐愛子	丸山 昭子
	森千 鶴	辻脇 邦彦
	大澤 優子	河口 朝子
監事	安田美弥子	
	刀根洋子	
指名理事	荒木とも子	
	片山典子	
	原田美智	
幹事	内野小百合	
	小野坂益成	
	野村智美	
	田辺有理子	
	デッカー清美	

アディクション看護学会投稿規定について

投稿規定について編集委員会で審議した結果、以下5項目について変更・追加いたしましたので報告いたします。(詳細はホームページ参照)

1. 投稿規定の原稿の種類を、「原著論文、実践報告、総説、短報、その他」に変更しました。
2. 「原著論文、実践報告、総説、短報、その他」の執筆の要領(字数)を変更しました。
3. 投稿論文チェックリストの倫理的配慮の証明書提出は削除いたしました。
4. 投稿論文チェックリストに利益相反のある場合、利益相反申告書の提出を追加いたしました。
5. 利益相反申告書を作成いたしました。

2018年度 日本アクション看護学会研修会のお知らせ

(詳細はホームページ参照)

「嗜癪問題で困窮する家族や子どもへの心理教育と看護支援」

日 程：平成 31 年 3 月 16 日 (土)
午前 10:30 ~ 16:00

場 所：東京都千代田区九段北 1-4-7
喜助九段北ビル 4 階 402

参加費：当学会会員：1000 円 非会員：3000 円
※尚、収容人数の関係上、参加は 40 名となった
時点で締め切らせていただきます。

申し込み先：下記の記載内容をご記載のうえ、
下記のメールアドレスへお申し込み
ください。

記載内容：氏名、会員の有無、所属、職種
横浜市立大学医学部看護学科
田辺有理子 yuriko@yokohama-cu.ac.jp

編集後記

向寒季節になってまいりました。本年度初めてのニュースレターをお届けいたします。諸般の事情により今年度初めに第 17 回学術集会のお知らせを出せませんでした。申し訳ございませんでした。

長崎での暑い、熱気に満ちた学会が懐かしいようです。学術集会報告の写真から多くの方々に集まって頂き盛会裏に終わった様子をお届けすることができました。今回は、大会長の発案で参加者からの感想も載せることができました。感謝申し上げます。多くの学びとつながり

を持つ学会でありました。

次回の学術集会は 6 月になっています。皆様、お誘いあわせの上、足を運んで頂ければ幸いです。

来年早々に詳しい内容をお知らせできると思います。

また、事務局からのお知らせにもあるように事務局が変更になりました。会員の皆様、会員だった方へお知らせ頂き、会費納入にもご協力お願い致します。

荒木とも子

事務局紹介

今年度の総会にて、事務局長を拝命致しました丸山昭子です。事務局のメンバーは、荒木とも子指名理事、小野坂益成幹事、野村智美幹事です。日下修一理事長や各委員会の先生方と連携を図りながら、日本アクション看護学会の学会運営がスムーズに行われるよう、メンバーと共に尽力させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、事務局の所在地も移転しました。

また、新体制についてホームページも更新しております。今後も新情報をできるだけタイムリーにアップしてまいりますので、適宜ご確認くださいようようお願い申し上げます。

<< 事務局住所 >>

〒 243-0124

神奈川県厚木市森の里若宮 9 の 1

松蔭大学看護学部 丸山昭子研究室内

日本アクション看護学会事務局

E-mail: jadict-office@umin.ac.jp

日本アクション看護学会補助機関誌

発行：平成 30 年 11 月 30 日

編集長：荒木とも子

発行者：丸山 昭子

日本アクション看護学会事務局